

豊島区

国際アート・カルチャー都市構想 資料

## 資料1. 国際アート・カルチャー都市プロデューサー提案

	名前	所属団体・役職		名前	所属団体・役職
1	あいざわ たかひろ <b>相澤 崇裕</b>	吉本興業株式会社 経営企画室室長	7	なかむら その <b>中村 園</b>	株式会社アレグロ 代表取締役
2	いのこ としゆき <b>猪子 寿之</b>	ウルトラテクノロジスト集団 チームラボ代表	8	まえだ さぶろう <b>前田 三郎</b>	株式会社キョードーフクトリー 代表取締役社長
3	すずき みしお <b>鈴木 美潮</b>	読売新聞東京本社 メディア局編集委員	9	みやた けいこ <b>宮田 慶子</b>	新国立劇場 演劇 芸術監督
4	たかい よしかず <b>高井 喜和</b>	株式会社京田クリエーション 代表取締役社長 作家たかいよしかず	10	ゆかわ れいこ <b>湯川 れい子</b>	オフィス・レインボウ 代表
5	たかはし ゆたか <b>高橋 豊</b>	株式会社アニメイト ホールディングス 社長	11	よこさわ だいすけ <b>横澤 大輔</b>	株式会社ドワンゴ 取締役 CCO
6	たちばな まさひろ <b>橘 正裕</b>	株式会社ナムコ 取締役会長			

※五十音順

 チーフプロデューサー

## 相澤崇裕 PD (吉本興業株式会社経営企画室室長)

### 【アート/カルチャー系スタートアップ企業の創出、豊島区での創業をステータスに】

- ・豊島区の「国際アート・カルチャー都市構想」を一過性のものにしてはいけない。ビジネス的な視点から全体として計算された仕組み作りのきっかけを作りたい。
- ・ロンドンのTech Cityのアート・カルチャー版のようなことを池袋で出来ないか。
- ・アート・カルチャー系のスタートアップ企業が池袋を中心に集まり、事業を立上げ、そのことが雇用を生み、最終的には新しい表現としてのエンターテインメントを生み出し、ビジネスとしての集積を形成する。さらには、生み出された作品なりが海外に行き、それを見に外国の方が来るようなイメージの生態系を作っていくことが理想ではないか。
- ・カルチャー・アート系スタートアップ企業の抱える課題は基本的には「資金、環境、ビジネス化」の3つ。具体的な支援策として、多様な資金調達手段の提供、事業化に向けての規制の緩和など実験のビジネスへの協力が考えられる。拠点については区の施設などを再活用することで様々なスペースを十分に供給できるのではないか。そういった要素を含む形でアート・カルチャー系スタートアップ企業や個人向けに区がリードする形でのアクセラレーションイベントの実施、インキュベーションファンドの組成などが実現できないか。
- ・IT系スタートアップ企業の中には豊島区で創業し、規模拡大とともに渋谷区や港区に転出する会社があると同様。アート・カルチャー分野におけるスタートアップ企業にとっては豊島区での創業が一種のステータスとなることを目指して様々な施策を実施すべきではないだろうか。豊島区からアート・カルチャー分野での傑出した企業が輩出されるころには、優れたコミュニティやネットワークが自然と地域に根付いているのではないだろうか。

## 猪子寿之 PD (ウルトラテクノロジスト集団チームラボ代表)

### 【道路や公園を光のデジタルアートに、デジタル遊園地で教育を】

- ・デジタルで制御された光で木を照らし、そこにいる人々の振る舞いに反応させたり、木同士をネットワーク化させることによって、夜は、区内の公園や、道路を一つの巨大なアート空間にすることによって、その空間が新たな体験になり、世界中で話題になる可能性を創ることができる。
- ・デジタルの遊園地は、従来の遊園地よりも床面積を大幅に小さくできるため、都市の中の建物の中に作ることができる。そして、ただ楽しいだけではなく、子供の創造性や、共同性の知育にもなるし、観光にもつながる。
- ・デジタルアートによって、UIロードをみんながここにいたいと思うようなトンネルにすることもできる。ソメイヨシノ発祥の地としてソメイヨシノをモチーフにしたデジタルアートのトンネルにすることによって、人が近くを通ると動いたり、さわると散ったり、本物とはまた違った新たな体験を創ることができるし、名所にもなりえる。

## 鈴木美潮 PD (読売新聞東京本社メディア局編集委員)

### 【食事・アニソン・ローカルヒーロー・ライブスペース・メディア戦略】

- ・池袋駅周辺で観劇後、食事するところがないため、飲食店の営業時間を延長することができればいい。
- ・アニメソングの名所にできると良い。アニソンは3世代で楽しむことができる。歌はクールジャパンのショーケースの中で欠落している部分である。
- ・ローカルヒーローは、経費をかけずにイベントなどに招致することができる。一方、オフィシャルな戦隊ヒーローは経費が掛かり、権利関係も難しい。
- ・アニメの殿堂とまでいなくても、小さなライブスペースができるといい。日替わりトークショーやCDの販促イベントなどができると使い勝手がいい。
- ・メディア戦略としては、ワンセンテンスの目立つ見出しが必要。「日本で初」「日本でここだけ」というフレーズが重要だ。

## 高井喜和PD (株式会社京田クリエーション代表取締役社長)

### 【子育てファミリー・絵本・スイーツ・清掃工場煙突アート・アニメ・公園遊具・こどもの城】

- ・子育てファミリーを対象に着ぐるみショーなどの参加型のイベント「未来の豊島区を『創造ショウ!』」や大きな仕掛けの絵本ランドを作り、遊びに来た家族が絵本の中に入れるような施設を作ってはどうか。
- ・清掃工場の煙突にLEDの照明で装飾のアイデアを募集する「豊島清掃工場『煙突』LED装飾アイデアコンテスト」を実施する。(プロジェクションマッピングでも面白い)
- ・女性を呼ぶためにスイーツとキャラクターをコラボしたイベントの開催。
- ・子どもを対象とした豊島区のオリジナルアニメを作成してはどうか。  
(子ども向けに安心して見せることができる豊島区を舞台にしたアニメ)
- ・アニメ好きをターゲットにしたアニメ聖地巡礼展も人が集まるのでは。
- ・子どもを巻き込むイベント、他区からも来てもらえるような参加型のイベントを実施し、ワークショップで作った作品を「子どもアートオリンピック」のように新庁舎に飾る。
- ・豊島区にある公園の遊具を第一線で活躍する絵本作家や、イラストレーター・映画監督・アニメーターにプロデュースしてもらってはどうか?  
(話題性を高め、今までなかった遊具の企画)
- ・豊島区にニュータイプ施設「こどもの城」：大型児童館を設置  
(シェルター機能を持たせて防災施設として利用出来るようにしてはどうか?)

## 高橋 豊PD (株式会社アニメイトホールディングス社長)

### 【乙女ロードのようなカルチャー発信のストリートを増やすこと。(or 第二第三の乙女ロードをつくること。)

#### そして、池袋駅の改札を出た瞬間に「始まっている感」のする街づくりを。

- ・カルチャー発信できるエリアが乙女ロードだけではまだまだパワー不足。他にも〇〇ストリート、〇〇通りを仕掛けていってはどうか。ある程度充実してきたら、海外メディアに積極的に発信していくことも重要。
- ・池袋は日常的に通いたくなるような場所にしたい。一回観光して“どんちゃん騒ぎ”して終わりという場所にはしたくない。観光で集客する地域や街と競う必要はない。東京オリンピックを最終目的にするのではなく、オリンピックをきっかけにして街を魅力的にしていきたい。
- ・池袋にトキワ荘を再現してはどうか？池袋にトキワ荘が出来て話題になると「そもそもトキワ荘はどこにあったの？」ということになって、人々の関心が増し、トキワ荘に行きたい人は増えていくと思う。
- ・例えばアニメイトで毎年実施しているAGF (アニメイト「-ルズ」フェスティバル) のようなイベントの際に、サテライト会場として現在は使用されていない学校などを借りられると良い。そうすることで、面白い展示やアトラクションを実施できるし、収容人数も大きいことから地方からの来訪も含めかなりのボリュームでも対応できるイベントになる。
- ・池袋駅を降りた瞬間に「始まっている感」を出す必要がある。今は、駅を降りてもそういう感覚はない。秋葉原は駅を出た途端に「アキハバラに来た！」感が始まっている。この「始まっている」感があると、カルチャー目的ではない一般の乗降客も街の発するものに対し「ウキウキした感覚を覚えてくれると思う。案内板なども含め、いろいろな工夫を凝らしたい。
- ・街中に「表現の場」をつくりたい。現庁舎の取り壊しまで空き家状態がある程度続くのであれば、イベント開催やアートミュージアムを実施するなど、表現の場として活用することで、賑わいを創り出せるはず。
- ・また、学校や庁舎などの巨大スペースだけでなく、小さな空間でいいので、常設的に「あそこに行けばいつも何か面白いこと、新しいことをやっている」「あそこに行けばやりたいことができる」という場所を区として提供してほしい。野外でもいいけれど、いろいろなことが想定されるので、ちょっとした屋根はあるといい。

**【情報発信力の強化、イベントの継続、規制緩和、インフラ環境の整備、インバウンド対応】**

- ・池袋周辺では様々なイベントが行われているが、副都市線でつながっている神奈川まで情報が伝わってこない。情報発信に力を入れるとよい。
- ・にぎわいを作るためにはネタが必要。イベント時に大手がメインで出るのではなく、オリジナリティの高い個人の店舗が出店しやすい環境を整え、継続させる。1度開催して終わるのでなく、最低でも2、3年続ける。
- ・特区を作り、興業法による規制を緩和する。そうすることで、新しい事業提案が生まれる。狭いコアな人達だけで楽しむという狙いの場合、ツイッターなどのSNSによるクチコミでの情報拡散が有効。
- ・豊島区内にアニメの学校や声優の学校があれば、アニメのお店に声優を目指す学生に出演してもらい、マイクを使ってオリジナルの実地練習を行うなどもいい。
- ・豊島区でアピールするものが固まってきたら、海外で開催される日本文化の展覧会でアピールしてみてもどうか。
- ・インフラの整備が課題。クレジットカード使用や、言葉の問題もクリアしなければならない。案内看板の多言語対応が求められ、最終的にはそういうところまで具体化することが必要である。
- ・インバウンド顧客に対する豊島区のPR強化が必要。静岡県は、台北国際旅行博(台湾・台北市)に出展し、現地で観光客向けにPRを行っている。このような事例を参考に、豊島区の魅力を海外に積極的に発信し、訪日需要喚起を行ってはどうか。

**【個人ミュージアム・アートコンテスト・庭園・光】**

- ・個人ミュージアムを作ってみてはどうか。個人宅にはびっくりするようなものがある。
- ・30～40代の女性がトライしてみたい事の1つに着物にふれたいという意識がある。着物を通して古い文化と新しい文化とのコラボをしてみたら？
- ・現代アートは反旗を翻しているイメージがあるが、街をモダンにし、ユーモアがある。既製品を寄せ集めるより豊島区で作ったものを展示して欲しい。
- ・現代アートのコンテストを実施し、賞金を出し、人が集まるところに飾ると、アーティストは喜んで自腹を切って作る。
- ・豊島区にかけているものとして川が街の中に流れていない。今ある色々な公園を各国の庭園風に変えてみては。水の音は人の心に良い波動を送る。イングリッシュガーデン風には池、インドでは噴水、世界遺産を巡る公園を作り水と調和すると楽しいかと。

## 前田三郎チーフPD (株式会社キョードーファクトリー代表取締役社長)

### ①国際アート・カルチャー都市「としま」

安全・安心の街づくり。私たち区民の生活に最も身近で大切な関心事です。どうしたら明るく、楽しく活力に満ちた生活を送ることができるのでしょうか。子供たちが笑顔にあふれ快活に学び遊ぶ日常こそが私たちの理想とする生活なのでしょう。治安の安全、保健・衛生の安心、財政の安定、教育・文化の充実の4か条から街の安全・安心度を測るという考え方があります。私たちの街「としま」は全国でも有数のポイントの高い街であることをご存知でしょうか。また、同時に消滅可能性自治体であるということも。

私たちはもっともこの街の性能をたかめ、より豊かにより便利に生活できる街づくりをしていかなければなりません。未来のために。もちろん行政とともに。

そこで国際アート・カルチャー都市構想を提案しました。アート・カルチャーに精通した11人のプロデューサーに協力いただき、区民の一人一人がより身近に芸術や文化にふれることができるよう、また日常の中に音楽や文学や美術が共存できるような生活を提案していきたいと考えました。11人のプロデューサーからいろいろ提案が出てきます。その中から何を選択するかは区民の皆様の判断です。デジタルアートからライブアートに至るまでそれぞれ高い見識を備えたプロデューサー達です。ご期待ください。

### ②ライブエンターテイメントがあふれる街「としま」

豊島区がとても劇場の多い街の一つであることをご存知ですか。東京芸術劇場(4劇場)、サンシャイン劇場、アウルスポット、池袋演芸場、豊島公会堂など。大小合わせて20近い劇場・ライブハウスでは毎日のように音楽・演劇・ダンス・落語・お笑いライブが行われています。銀座、渋谷、新宿、下北沢よりも多くのライブエンターテイメントが毎日催されているのです。もし、この機能がよりブラッシュアップされ、より集積されたならN.Y.のブロードウェイやロンドンのウェストエンドのようになることが可能となるかもしれません。世界中のお客様が「としま」を目指してくるのです。安全で安心で美味しいものがあってエンターテイメントがある街「としま」。つまり、もっともっと劇場をたくさん造ってしまっただけでライブエンターテイメントあふれる街にしてしまっただけではという提案です。劇場だけではなく路上にライブができる施設を造ってしまっただけでは。毎日、街がにぎやかになるように。

でも劇場やライブ施設を造ろうとするといろいろな法律に従わなければなりません。建築基準法、消防法、興行場法、環境衛生法等など。また、民間会社が劇場を建てようとする資金の問題も発生します。劇場建設には巨額な資金が必要になります。

この街のどこかでビルの建て替えがあるとしたら、新しいビルに劇場を入れてみてはとお願いしたら。そのかわりビルのオーナーの経済的負担を減らすために新しく立てる建物の容積率をあげてあげるとか。劇場部分の建築費の融資保証や金利の軽減策を図るとか。あるいは税の軽減とか。法律の改正や行政の判断が伴うことですが特区申請などを利用することなどで可能になるのでは。

旧豊島区役所、豊島公会堂跡にも総合開発が進んでいます。この中にもいくつかの劇場ができることになっていると聞いています。ライブエンターテイメントが上演できる場所をたくさん作ることによって「としま」の魅力や性能を強化し人を呼び寄せようという計画です。あちこちの街角に街頭ステージがあることも楽しいことではありませんか。パリでは地下鉄の通路でもジャズやポップスが演奏されています。ましてや地下鉄の車内でも演奏されているのです。もちろん許可を得たアーティストたちが演奏しているのですが。街角では画家が絵をかきパントマイムが、ダンスが、音楽が。そういう環境を豊島区が全国で初めて実現したとしたら。

クーベルタン男爵は、オリンピックとは「スポーツと文化の結婚」と言っています。来る東京オリンピックに向けて、文化の祭典は是非「としま」にと誘致してみたいと思います。世界中のお客様をアート・カルチャー都市「としま」にお迎えしようではありませんか。

**【文化芸術を箱から出してみましょう】**

文化芸術というと、どうしても劇場や美術館などの“容れ物・箱”に閉じ込めてしまう傾向があるのですが、“箱”から外に出すことも積極的にやっていると、まちの新たな楽しみ方が生まれ、区民だけでなく、豊島区を訪れた人たちの満足度が高まるのではないのでしょうか。

例えば、レストランに行こうと思って歩いていたら素敵なパフォーマンスイベントに出会えた、区役所に出かけたら待ち時間に美術品を見ることができたなど、まちの機能にプラスアルファの要素が生まれてくると、なによりも、多様な好奇心を持っている女性たちのハートを捕らえることができます。女性が足を運ぶようになると、まちは元気になり、より多彩で、カラフルなまちになります。

また、まちのいろいろな場所を舞台にするという企画も立てることができます。リーディングという台本を読む形式のちいさな公演を、劇場ではなく喫茶店やレストランで開催すると、おおきな会場よりも音が染みとおり、観客がラジオドラマを聞くように息を殺して聞き入るような、臨場感あふれる場面が生まれることもあります。

また、国際アート・カルチャー都市を推進していくのであれば、まちに来た皆さんに、ご自身で直接に芸術体験をしてもらうことも大切だと思います。例えば、毎週日曜日には、公園に白い大きなキャンバスを置いて、アーティストとともに、参加する人たちがその場で自由に絵を描けるようにしてみるだけでもいいのです。芸術を身近なものと感じてもらい、まちの中で展開するためには、しっかりとしたアートディレクションも必要です。大がかりな物でなくても、小さな企画がたくさんあるのも楽しいと思います。

豊島区では、まちのいたるところで文化・芸術の企画を展開するまちづくりをしているということが知られていくと、外国の方にとっても魅力的なスポットになっていくと思います。

**【駅から5分でタイムトラベラーツアー】**

浅草などでは、下町を自転車で走るツーリングが流行っているようです。参加した外国の方の感想では、裏道を走れたことがなによりも面白かったということです。

外国の方はまち歩きを大切にします。私たちには「当たり前」と思える、気にも留めていない風景も、外国の方には「珍しい、日本ならではのもの」と喜ばれたりもします。きっとそこには、「日本の生活」があるからなのでしょう。

豊島区の場合、池袋から5分もあれば人々の暮らしが息づく住宅街に入れますから、いまだに残っている昭和を彷彿とさせる街並みを生かして、懐かしい時代の日本人の暮らしが見えるツアーができれば面白いかもしれません。山手線の範囲内で、暮らして、巨大ターミナルが一体となっているまちは池袋しかありませんから。

また、外国からアーティストを呼ぼうとすると、入国手続等の規制や、宿泊施設の整備、交通手段の複雑さなど課題がいろいろあります。けれど、日本の文化を知りたい、日本人のそのまの暮らしを知りたいという人も多いので、豊島区では、アーティストたちのホームステイを推奨するのもよいかもかもしれません。

それこそがまさに人の視点に立った「国際アート・カルチャー都市」なのではないかと思えます。

## 湯川れい子 PD (オフィス・レインボウ代表)

### 【女性を対象にしたイベント、音楽・アニメの活用、世界への発信】

- ・女性が集まるところに流行が生まれる。二番煎じだと大きくならないので、アートマルシェ・フェスティバルのような売り物をまず見つける。3年かければ大きくなるのではないかな。
- ・定期的を開催することで、出店する方も、客も予定に入れることができる。
- ・スイーツは女性に人気があり、名のあるパティシエから区内の専門学校に出展を呼びかけ、人気投票も面白い。また、若い女性向けの小物は新しく、魅力的である。高いものを売るのでなく、安く可愛らしい女の子が喜ぶものが多い。
- ・アニソンは強い。定期的にアニソンイベントが行われている小屋を用意し、上手く展開すれば、外国から人を呼ぶことができる。情報発信ひとつをとってもハッシュタグをつけて、世界中の人の関心を引く特色があるものができれば、最初は小さくても大きくできる可能性がある。
- ・コスプレの大きなフェスは日本にないので、池袋でやれたらいい。唯一日本が世界で最先端であるのはアニメであり、コスプレである。
- ・庁舎跡地をにぎわいの拠点とするためには、人が使いやすく、若者が集まる場所になるのが一番いいのではないかな。劇団やバンド向けに、一定のレベル以上であれば、発表の場として安く貸し出すのもいい。
- ・豊島区は洋楽のアーティストのコンサートを開催してきていないので、テントホールでもいいから新ホールができることにより、洋楽アーティストを呼ぶことができたら話題になる。
- ・池袋は上品な芸術劇場というよりもパンクである。少し外れた下町である一方、活気があり、若い人が集まってくる。そして、年配者にも優しいまちだと思う。
- ・世界に池袋の存在を示していくためには、成功例から言うと、まず、英語で発信できる人を窓口として置き、アニメ・コスプレなどの情報を発信していく必要がある。英語のほか、フランス語、スペイン語、中国語で発信できれば強い。

## 横澤大輔 PD (株式会社ドワンゴ取締役COO)

### 【観光資源のデジタル化、若者文化、消滅可能性都市のハブに】

- ・観光資源をうまくデジタル化して、現場とネット上で、人が二度集まるような場所を作り、それを若者文化とつなげていく。
- ・池袋は多くの人がゆっくり回遊していて、ターミナルとして非常によい状態であり、立ち寄りスポットをもっと増やせる可能性がある。
- ・京都はまち自体が集客装置。景観条例もあるが、「きちんと集客できますよ」という仕組みを行政が作ることでできれば、池袋はおもしろいまちになる。
- ・池袋のチェーン店は「何かが違う」と、見せることが重要。それが「まちぐるみで何かをやっている」というサインになる。
- ・今、注目されているポイントは結構限られていて、「当たり前のものが変わる」、「大人が本気で遊ぶ」というのが、若者たちにささるキーワード。
- ・池袋は、いい意味で色が付いていない。キャッチコピーがないことが逆にプラスになる。「消滅可能性都市」というブランドを使うべき。
- ・相互優位というか、消滅可能性都市の物産を豊島区に持ってきて、消滅可能性都市の応援イベントをやりたい。
- ・昔のようにバンド系の聖地がなくなって散漫になっているので、池袋はバンド系とかアニメの声優とか、何かを追いかけている女の子たちが集まる場所にし、ニコニコ本社も含めてうまく回遊していただこうと思う。
- ・まず国内で勝てるよいものを作ってから海外に発信しないと海外でも勝てない。海外戦略を考える人は、海外に向けて作っているように感じる。国際的なものを作るより、キーになるものを集めるだけで十分。



## 資料 2. 都市政策顧問 隈 研吾氏 ご意見

### 都市政策顧問 隈 研吾 (建築家・東京大学教授)

#### ① 池袋副都心の都市づくり動向

豊島区(池袋周辺)は、新旧やハイカルチャー、ストリートカルチャーなどの対比があって、日本の今一番おもしろい所が詰まっていると思います。しかも、いくつかのまちづくり計画や再開発でさらに刺激することで、もっと高いレベルにいける場所がたくさんあります。豊島区の計画に携われた事で、世界に向けて話すネタがたくさんあると再確認できました。

#### ② 国際アート・カルチャー都市構想

豊島区がもっている幅の広さの部分、例えば、単にストリートカルチャーだけでなく、新しいだけでもない、そのような色々なものが混じり合っているおもしろい部分をつかんだ現代的な世界に通用する構想だと思います。

キャピタル・オブ・カルチャーが始まったのは、20年位前で、ヨーロッパはどんどん盛り上がっています。私は、キャピタル・オブ・カルチャーのシンポジウムやイベントに招待されることがあり、キャピタル・オブ・カルチャーをたくさん見て回ってきました。

日本で、キャピタル・オブ・カルチャーにふさわしい魅力的な場所は豊島区ではないかとの国際アート・カルチャー都市構想を見て思いました。この構想は、ヨーロッパでもおもしろく展開できる可能性が考えられます。ヨーロッパのキャピタル・オブ・カルチャーで選ばれる都市は、おもしろみが発見できるような都市で、その発見という事をすごく大事にしています。豊島区はまさに発見の余地がある、ヨーロッパと比べても競争力があるという事を再発見しました。

ぜひ、この路線でどんどん進めて、まちづくりと連動させていただければ良いと感じました。

今までの日本の都市開発は、限定的な区域で展開することを基本としていましたが、私は新庁舎と庁舎跡地をダンベルと称し、今までにないまちづくりのモデルとなる可能性があり、将来的だと思っています。現代に求められているまちづくりは、限定的ではなく周りに広がりを持たせ、まちのにぎわいを上手く取り込んでキャラクターをつくり出すことなので、今回の構想は今の時代に合っていると思います。

#### ③ ミピム (MIPIM) ※5 について

ミピムはカンヌ映画祭の都市開発版のようなものです。各都市が世界からの注目を集められるような大変な競争をしており、それを発表する世界的なイベントです。その中で、どのようなプロジェクトが注目されているかということ、その場所のキャラクターやストリートと連動し、環境に配慮しているものが評価されています。豊島区のプロジェクトは、そのような場に出しても恥ずかしくないまちづくりが進んでいると考えています。

※5

#### ミピム (MIPIM)

MIPIM (不動産プロフェッショナル国際マーケット会議) とは 1990 年からフランス・カンヌで毎年 3 月に開催されているリードミデム社による国際的な不動産イベントで、地域開発・不動産投資に関連する地方自治体、企業、投資家等が一堂に会し、契約等の商談、大規模開発の情報収集、新規マーケットの発掘等を行う世界最大級の見本市。

また、主にアジアの投資家を対象とした MIPIM ASIA が、2006 年から香港で毎年 11 月に開催されており、2015 年に MIPIM JAPAN として東京にて開催されることが決定した。

(国土交通省ホームページより)

## 資料3. 国際アート・カルチャー都市構想策定チーム会議

## ○検討経緯

- 第1回 平成26年10月15日 \*平成26年12月2日 太下 義之氏レクチャー (三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社  
第2回 平成26年11月10日 芸術・文化政策センター センター長/主任研究員)  
第3回 平成26年12月8日 \*平成26年12月9日 吉本 光宏氏レクチャー (ニッセイ基礎研究所 研究理事)  
第4回 平成27年1月29日

## ○メンバー

## 《策定チーム》

(敬称略)

No.	氏名	所属	備考
1	渡邊 浩司	副区長	チームリーダー
2	佐藤 和彦	企画課長	
3	矢作 豊子	広報課長	
4	高橋 孝志	シティプロモーション推進室長	
5	田中 真理子	生活産業課長	
6	小澤 弘一	文化デザイン課長	
7	斎藤 明	文化観光課長	
8	原島 克典	都市計画課長	
9	三沢 智法	拠点まちづくり担当課長	
10	馬場 晋一	(公財) としま未来文化財団 みらい文化課長	
11	小島 寛大	フェスティバル/トーキョー ディレクターズコミッティ副代表	ゲストメンバー

## 《スーパーバイザー》

No.	氏名	所属	備考
1	羽藤 英二	東京大学 工学系研究科教授	
2	平賀 達也	ランドスケープアーキテクト	
3	高萩 宏	東京芸術劇場副館長	
4	東澤 昭	(公財) としま未来文化財団事務局長	
5	蓮池 奈緒子	NPO法人アートネットワーク・ジャパン理事長、フェスティバル/トーキョー実行委員	
6	安島 博幸	立教大学観光学部教授	

## 《事務局サポート》

No.	氏名	所属	備考
1	斎藤 健治	UR都市機構 東日本都市再生本部事業推進部プロジェクトマネージャー	林、吉田、大野、狩野
2	宮原 賢次	隈研吾建築都市設計事務所 設計統括室長	齊川